

7-6 授業科目

医学研究科人間健康科学系専攻（博士後期課程）の授業科目

科目区分	授業科目の名称	授業責任者	配当年次	単位数			授業形態			時間数	備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習		
近未来型人間健康科学	バイオメディカルインフォマティクス学	笹山	1通		4		○			60	
	臨床画像診断学	石津	1通		4		○			60	
	医療データ利用論	石津	1通		4		○			60	
	神経心理学基礎	澤本	1通		4		○			60	
	神経心理学特論	澤本	1通		4		○			60	
	人間健康科学融合ユニット特別研究	澤本	1～3通		4				○	120	
科選択	大学院教育コース（演習）		1通		4				○	60	※メディカルイノベーション大学院プログラム科目
	大学院教育コース（実習）		1通		2				○	60	
先端看護科学コース 専門実践科目	生活環境看護学特講	若村	1通	4			○			60	
	生活環境看護学特講演習	若村	2通	4				○		60	
	生活環境看護学特別研究	若村	1～3通	4					○	120	
	在宅医療・認知症学特講	木下	1通	4			○			60	
	在宅医療・認知症学特講演習	木下	2通	4				○		60	
	在宅医療・認知症学特別研究	木下	1～3通	4					○	120	
	ビッグデータ医科学特講	奥野	1通	4			○			60	
	ビッグデータ医科学特講演習	奥野	2通	4				○		60	
	ビッグデータ医科学特別研究	奥野	1～3通	4					○	120	
	看護倫理学特講	竹之内	1通	4			○			60	
	看護倫理学特講演習	竹之内	2通	4				○		60	
	看護倫理学特別研究	竹之内	1～3通	4					○	120	
	生活習慣病看護学特講	任	1通	4			○			60	
	生活習慣病看護学特講演習	任	2通	4				○		60	
	生活習慣病看護学特別研究	任	1～3通	4					○	120	
	クリティカルケア看護学特講	西山	1通	4			○			60	
	クリティカルケア看護学特講演習	西山	2通	4				○		60	
	クリティカルケア看護学特別研究	西山	1～3通	4					○	120	
	精神看護学特講	未定	1通	4			○			60	
	精神看護学特講演習	未定	2通	4				○		60	
	精神看護学特別研究	未定	1～3通	4					○	120	
	緩和ケア看護学特講	田村	1通	4			○			60	
	緩和ケア看護学特講演習	田村	2通	4				○		60	
	緩和ケア看護学特別研究	田村	1～3通	4					○	120	
	小児看護学特講	松岡	1通	4			○			60	
	小児看護学特講演習	松岡	2通	4				○		60	
小児看護学特別研究	松岡	1～3通	4					○	120		
周産期疫学特講	古田	1通	4			○			60		
周産期疫学特講演習	古田	2通	4				○		60		
周産期疫学特別研究	古田	1～3通	4					○	120		
地域健康創造看護学特講	塩見	1通	4			○			60		
地域健康創造看護学特講演習	塩見	2通	4				○		60		
地域健康創造看護学特別研究	塩見	1～3通	4					○	120		

※特別研究科目の履修登録は3回生前期に行う

※メディカルイノベーション大学院プログラムについては50ページ

科目区分	授業科目の名称	授業責任者	配当年次	単位数			授業形態			時間数	備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習		
先端リハビリテーション科学コース	生体構造学特講	山田	1通	4			○			60	
	生体構造学特講演習	山田	2通	4				○		60	
	生体構造学特別研究	山田	1～3通	4					○	120	
	運動機能解析学特講	黒木	1通	4			○			60	
	運動機能解析学特講演習	黒木	2通	4				○		60	
	運動機能解析学特別研究	黒木	1～3通	4					○	120	
	運動機能開発学特講	市橋	1通	4			○			60	
	運動機能開発学特講演習	市橋	2通	4				○		60	
	運動機能開発学特別研究	市橋	1～3通	4					○	120	
	生体機能学特講	林	1通	4			○			60	
	生体機能学特講演習	林	2通	4				○		60	
	生体機能学特別研究	林	1～3通	4					○	120	
	臨床認知神経科学特講	十一	1通	4			○			60	
	臨床認知神経科学特講演習	十一	2通	4				○		60	
	臨床認知神経科学特別研究	十一	1～3通	4					○	120	
	脳機能リハビリテーション学特講	稲富	1通	4			○			60	
	脳機能リハビリテーション学特講演習	稲富	2通	4				○		60	
	脳機能リハビリテーション学特別研究	稲富	1～3通	4					○	120	
選択科目	教育学特論Ⅰ	稲富	1前			1	○			15	
	教育学特論Ⅱ	青山	1後			1	○			15	
	リハビリテーション教育学演習Ⅰ	林	1後			1		○		15	
	リハビリテーション教育学演習Ⅱ	黒木	2前			1		○		15	

※特別研究科目の履修登録は3回生前期に行う

科目区分	授業科目の名称	授業責任者	配当年次	単位数			授業形態			時間数	備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習		
総合医療科学コース 専門実践科目	分子生命基礎医療科学特講	岡	1通	4			○			60	
	分子生命基礎医療科学特講演習	岡	2通	4				○		60	
	分子生命基礎医療科学特別研究	岡	1～3通	4					○	120	
	病因応答基礎医療科学特講	伊吹	1通	4			○			60	
	病因応答基礎医療科学特講演習	伊吹	2通	4				○		60	
	病因応答基礎医療科学特別研究	伊吹	1～3通	4					○	120	
	形態形成基礎医療科学特講	高桑	1通	4			○			60	
	形態形成基礎医療科学特講演習	高桑	2通	4				○		60	
	形態形成基礎医療科学特別研究	高桑	1～3通	4					○	120	
	臨床ゲノム解析学特講	徳野	1通	4			○			60	
	臨床ゲノム解析学特講演習	徳野	2通	4				○		60	
	臨床ゲノム解析学特別研究	徳野	1～3通	4					○	120	
	臨床研究開発学特講	足立	1通	4			○			60	
	臨床研究開発学特講演習	足立	2通	4				○		60	
	臨床研究開発学特別研究	足立	1～3通	4					○	120	
	臨床画像検査解析学特講	藤井	1通	4			○			60	
	臨床画像検査解析学特講演習	藤井	2通	4				○		60	
	臨床画像検査解析学特別研究	藤井	1～3通	4					○	120	
	バイオメディカルデータサイエンス特講	鎌田	1通	4			○			60	
	バイオメディカルデータサイエンス特講演習	鎌田	2通	4				○		60	
	バイオメディカルデータサイエンス特別研究	鎌田	1～3通	4					○	120	
	先端医療画像解析学特講	杉本	1通	4			○			60	
	先端医療画像解析学特講演習	杉本	2通	4				○		60	
	先端医療画像解析学特別研究	杉本	1～3通	4					○	120	
	先端医療機器システム学特講	未定	1通	4			○			60	
	先端医療機器システム学特講演習	未定	2通	4				○		60	
	先端医療機器システム学特別研究	未定	1～3通	4					○	120	
	先端医療データインテリジェンス特講	中尾	1通	4			○			60	
先端医療データインテリジェンス特講演習	中尾	2通	4				○		60		
先端医療データインテリジェンス特別研究	中尾	1～3通	4					○	120		
医学物理学特講	中村	1通	4			○			60		
医学物理学特講演習	中村	2通	4				○		60		
医学物理学特別研究	中村	1～3通	4					○	120		

※特別研究科目の履修登録は3回生前期に行う

【学位授与の必要条件】

博士後期課程では、3年以上在学して教育理念・目標に沿った授業科目を履修して16単位以上を修得し、研究指導を受け、博士論文を提出し、所定の審査に合格することが学位授与の必要条件である。修得すべき授業科目には各分野の特講、特講演習、融合ユニット科目、特別研究がある。博士論文の審査では、学位申請論文が学術的意義、新規性、創造性、応用的価値を有しているかと学位申請者が研究の企画推進能力、研究成果の論理的説明能力、研究分野に関連する高度で幅広い専門的知識、高い倫理性などを有しているかを複数の審査員により総合的に審査する。

【特別研究】

特別研究は1年次前期からテーマの選定に入り、3年間の研究計画に基づいて研究を実施し、博士論文を作成する。特別研究の目的は、将来臨床および研究機関において、課題を分析・解決するための企画・立案能力を身につけること、また研究者養成の最終段階として研究に関する応用能力を身につけることである。そのために、研究テーマの選定や研究計画の作成は、各分野の最先端の情報等を有する指導教員の指導の下に、国際的な医療の現況・課題等を視野に入れた国際的研究のレビューを行いながら、融合ユニット科目を通じて多角的・分野横断的に近未来的な問題意識を持つことができるよう指導を行う。その上で、学生個々の専門領域に従って、研究の目的、概念枠組の明確化、研究計画の立案、研究方法の選択、データの収集、結果の分析、考察など研究の一連のプロセスを実施し、学生の研究進捗状況を考慮し、指導教員を中心としてテーマに詳しい教員がチームを編成して博士論文の執筆・作成の指導にあたる。